

■部会名：まちづくり部会

■部会長（有識者委員）：隼田 尚彦 委員

■市民委員：笹原 邦子 委員、佐藤 尚人 委員、瀬野 朋恵 委員、
名和 靖子 委員、深谷 亮一 委員、山崎 智行 委員

■概要

1 今後の進め方について

隼田部会長： 前回の市民会議での部会員からの意見について、今までの市役所のやり方というのは、縦割りで話し合いがきちんとできていなかったように思う。話を聞いたというポーズは、江別に限らずどこの市役所でも同じようなものであった。

一つ皆さんにご理解いただきたいのは、今回の会議は、江別市の総合計画をつくるということで、各界各層や我々委員から出てきた意見を整理しているが、具体的な事業であるものが多い。この具体的な事業を行うには、まず総合的な計画がベースにあって、その計画が通った時点で、どういう事業をやるかというさらに深い議論を次の段階で行い、その上で、国の補助金をどうするとか、市の税収からどうするとかという具体的なお金のことを考えて実際の事業化を行う。だが、例えば、詳しい経過は分からないが、既に行われている野幌駅前広場の整備事業については、本当はやる前にこういう会議が行われて、野幌駅なのか、江別駅なのか、大麻駅なのか、全体的なイメージを固めてからどこにどういう様に投資していくかということを議論していくべきかと思うが、補助金やJR等の事業者との兼ね合いがあって、先に事業が進むという不幸なケースがある。

今回は、縦割りでではなく、できることはちゃんとやっていこうという立場で、市長が、広く皆さんに参加していただいて議論をする場を用意しているため、聞くだけ聞いてやらないという話にはならないと思う。ただ、以前から申し上げているように、これだけ財政状況や人口減少という厳しいマイナスの方向にある社会の中で、中・長期を見据えて物事を実現していこうとすると、お金をかけずに、市民も汗水流して働く市民協働のまちづくりで考えていかなければならない。このことを踏まえて、市で今後のことを考えてもらえるように、これまでの意見に優先順位を付けて我々で示していきたい。

○ まちづくり部会のマトリックスの話と他の部会での話し合いの部分を総合的に考えると、限られた回数や時間の中では発言の時間が少ないと感じて、全体会議で受け答えしもらえると思い質問したが、1分という時間しかなかった。

隼田部会長： 今回は、かなり多くの方に参加していただいている会議であり、皆さんそ

れぞれ意見をお持ちであるが、それを全部やろうとすると、何年かかっても計画案がまとまらないことになるので、この中である程度集中しながら、整理していかざるを得ない部分があると思う。ご意見は、どんどん発言していただきたい。他の部会からご意見をもらうこともあるし、こちらから他の部会へご意見を回すことも可能である。まちづくり部会は、大きな枠組みなので、何を話したら良いか分からない部分もあったり、戸惑ったりすることもあると思う。これまでの話では、もうお金をハード面に向けられない時代だが、明らかに足りない部分と自分たちでもできる部分と、色々なレベルのものがある程度整理されてきている。この中で意見を上手く繋げていけるような形で今後議論できれば良いと思う。

この部会は、他の部会と最も重なり合っている部会であるので、他の部会に対して話が行きやすいし、他の部会から回ってくることもいっぱいある。この会議全体の具体的な戦略がまとまった時に、根幹をなす部分をこの部会が担っている。そういう意味で、いろいろなご意見をいただきたい。

この市民会議の運営方法については、当初の部会長たちの話し合いの中でも二転三転しているが、なるべく市民の意見を多く吸い上げたいという思いがあるし、また、市民活動をやっている自分がこれまで経験した嫌な思いを皆さんに味わっていただきたくないと考えている。

すべての部会に共通している意見として、効果的な「情報発信」のあり方がある。市民全体に対してもそうであるし、この会議に出ている委員に対する情報発信としても意見を出していただいで構わない。

また、本来ここで話し合わなければならない重要なポイントとして、「市民自治の視点」でのまちづくり政策についてしっかりと話し合う必要がある。かつては、行政におんぶに抱っここの形であったし、場所によっては行政がやりたい放題であった。しかし今は、市民側が行政と協働しながら自治を行なっていくことを考えなければならない。この辺りのご意見を伺えると、建設的な議論ができる。これらを踏まえて、次回は戦略テーマについてたたき台で話し合いたい。このまま延々と議論を続けていくと、いつまでもゴールが見えず、その間に市の事業がどんどん進んで行ってしまうことになり、かえってマイナス面が大きくなるので、この部会の中で、ある程度重要な部分を絞って議論し、総合計画ができた段階で、次のステップに進んでいくという方向にしたい。

前々回の部会の会議の中で、公共交通の検討会議を別に設ける話があったが、ここの部会でもいろいろ話し合っているのにどういうことなのかと思うかもしれないが、その会議にこの部会で話し合われたものがたたき台として挙がっていくことになる。公共交通の検討会議で、すべて決まってしまうということではなく、この部会の内容もフィードバックされて話し合われると思う。この部会での議論を早めに進めていきたい。

2 これまでの市民会議及び各界各層との意見交換における新規意見の整理

隼田部会長： 他の部会でこの部会に直接関わりがあった意見としては、地域産業部会において「買い物しやすい街」や「商店街としての街並み回復」、そして「植樹」をして何々というものから、「大型公園」までいろいろと意見が出てきているが、大掛かりなものやお金を投入しづらい内容のものは厳しい。一方、街並みなどは、自分たちで整備できるものもあるので、短期的に整備できるものから長期的・継続的に考えなければならないものまでであるという話が前々回の部会であったところ。

実際に我々が慎重に考えなければならないのは、お金がない中でお金がかかる事業を戦略テーマに中に据えてしまったら、絵に描いた餅になってしまうということ。夢はある程度持ちたいが、現実として無理なことは無理だということを市民側が把握して、市民側が整理するというのが「市民自治」の第1歩であると思う。例えば、「徒歩でも買い物しやすい街」というものを、どこで、どう実現するのか。これを江別市全域で実現するのは難しい。地域産業部会にこちらの考えとして返してあげる必要がある。また、「商店街としての街並み回復」は、野幌駅の国道側についてはある程度事業が進んでおり、実現の可能性はあるが、他の所にどれだけの優先順位をつけるか、全体の中で高くするのか低くするのかということは、皆さんからご意見をいただきながら考えなければならない。

「大型公園の整備」は、相当お金がかかるし、「大型公園」を整備する必要があるのかどうか。「大型公園」と断定してしまうのか、それとも可能性のある形として「大型公園」も含めた大枠の中で実現に近づけられる提言とするのか。せっかく描いた絵なのに、実現できませんでしたとなると、何のための会議かということになってしまうので、そうならないように、我々の意見が埋没しないためにも将来の計画案に乗れるような形での提案をしなければならないと思う。

一方、「植樹」をすることについて、すべてを市の予算でやったら大変なことになるが、イベントのように市民参加でやると、もしかしたら少しずつやれるかもしれない。

○ 地域産業部会のカードで「大型公園」、「食事のできる場所」、「桜の植樹」という意見があったが、この3つには共通点がかなりあると思う。お金がかかるということだが、日本人の好きな桜で江別市にも観光客を呼ぶという意見だと思う。どれぐらいのお金がかかるものか。

○ 桜を植えたら、後の手入れや落ち葉の清掃の予算も必要になる。

隼田部会長： 当然、実現しようということになれば予算化になるが、今までのような何でも予算の中で整備していくことが難しい状況になっている。それをどうや

って打開するかということが我々に投げかけられている。

○ シルバー人材センターや学生ボランティアを使うという手もある。

隼田部会長： そういう提案とセットにして、市民が関わり合いながらなるべく予算を低減してこういうことを実現しませんかという提案をするのと、ただこういうものをつくってくださいという提案するのとでは、大きな違いがあると思う。

どこまでできるかは、そこから先のお金の算段で縮小するかも知れないが、方向性は見えてくる。

街並みの整備は、中長期的な話であるが、既存の公園の整備などは、市民の力を活用してできるということを意見の中で整理していきたい。決して、街並み整備を否定している訳ではなく、バブル期のようなお金は、今はもうないので、江別市の最優先事項かどうかを皆さんでご議論いただきたい。

○ 桜の名所ができると、観光客がお金を落とすといってくれる。しかし、お金がないと整備ができない。結果的に大きな成果を得られて、かつ低コストの予算でできるものを優先してやっていけたら良いと思う。観光客が落としたお金で整備できると良いのではないか。

○ 桜の植樹では、記念植樹という手がある。植樹をした人が、責任を持って樹の世話をするというのはどうか。場所をどこにするかという問題については、大型公園を別につくらなくても、江別市内全体が公園みたいなもの。どこか1か所、足場の良いところで、交通の便が良く、誰でも訪れることができる利便性の良い所が良いのではないか。泉の沼など、ある程度土地の確保ができる所であれば、時季を決めて記念植樹を行い、初めのうちは食事のできるテント村みたいなものをその時季だけ用意して、お金を落とす方法を考えて、次の年に増やしていく方法もある。但し、桜の樹の場合、消毒が必要なので、人家から離れた所でなければならない。1本数千円で樹を買ってもらい、植えた後は、その樹の世話をしてもらったら良いのではないか。落葉の時季には、皆で一斉に落ち葉の清掃をして、その後バーベキューなどを実施するのも良いのではないか。大きなものをつくる必要はなく、できるお金の範囲内で最低限の整備をしてイベント的に実施したら成功するのではないか。情報の発信も併せて大事である。

○ 未来に向けたまちづくりなので、長期的な一つの案にはなると思う。

○ 連続性のある植樹について、JRの鉄道林を含めて市民がどう関わることができるか。

JRは、一体どういう風に鉄道林を整備していきたいのか。

隼田部会長： 民間セクターの話なので、提言の中に盛り込むには、その辺りは柔らかく表現していくのが良いのではないか。市とJRとの間で調整をしてもらうこともあり得る。直接盛り込めることと付帯事項としてこういう風にやってほしいという部分を提示していくことが大切。自分の愛着を持ちながら、市の予算を圧迫することなく、皆の住環境をよくしていくということができれば、今回の「えべつ未来市民会議」を開催した意義というものが出てくると思う。

このようなことをどんどん出していただきたい。そうすることで、市側も

具体的に次のステップに移っていくことができると思う。

- これまでの市のあり方に対して我々が何かを言うチャンスというものがなかったと思う。こういう機会は良いと思う。裏を返すと、これまで市民の側で自助努力をしていないという所に行きつく。自分たちもこれぐらいのことはできるという意識が生まれるような方法にすれば良いのではないか。何でもかんでも陳情すれば良い、人数が多ければ聞いてもらえるというような今までの状態が良くないと思う。

隼田部会長： 市に対する投げかけでもあるが、ここでまとまった内容は、市民に対する投げかけでもあるので、それに賛同してもらって、少しでも多くの人たちに参加してもらうための種まきという部分が大きいと思う。

- 「商店街としての街並み回復」は、江別も、野幌も、大麻も関係していて漠然としている。
- 今は野幌駅周辺の事業が盛んになっているが、例えば、人口が減る中でそれをつくって将来どのようにしたいのか疑問ではある。
- 新しい住宅街から市立病院へ行くバスはあるが、昔の市街地と言われているまちから市立病院へ行こうとしたら、バスがないと思う。バスと電車が同じ時間に発車しているので、乗り遅れるとどちらも乗れないということもある。

隼田部会長： バスのネットワークについては、以前から話が出ており、この部会でもきちんと話し合おうということになったが、既に開発されて高齢化している地域については、若い世代の人に対する魅力がなければ当然人は来ないし、より便利な所があれば、そこに人が集まる。便利でまだ戦える場所を江別でしっかり整備することで、高齢者も若い世代も住めるということになれば、投資した分、皆が幸せになれると思う。

農業の法人化により大規模に営農しなければやっていけない時代が迫っている。例えば、もう実際に起こっているが、街中に住んで郊外の農地へ通うという農家の人がある。そうすると、逆に江別の持っている農業の潜在的な力を活かせるかもしれない。一方で、農地のある場所に住まなければ駄目だという強い信念を持っている人たちもいるので、不便でもそこに住むという人たちをどうサポートするかを考えなくてはならない。いろいろなことを考えなければならないが、一つひとつ検討していくしかない。

- 「商店街としての街並み回復」は、短期的な話ではなく長期的であると思う。商店街の街並みは、常に変わっていくものである。2番通の商店街も30年前に区画整理されて商店街が張り付いたが、今はほとんどがいなくなってしまった。その時代によって商売の形態も変わるし、人の動きも何もかも変わる。商店街としての街並みの回復は、分からなくはないが、望む商店街の街並みというのは、一体どういうものなのか。街並みは、結果として現れることなので、ここでははっきりと結論を出せないと思う。とりあえず、長期にカードを置いて、まちづくりをしていく中での商店街ができてくると考える。希望の商店街をつくっても、その周りに何もなければ、上手くいかないと思う。

以前から、「コンパクトシティ」の話をしているが、交通の便の良い所に居住してもらって、そこで徒歩で買い物してもらおうという状態にはできるはずである。人口が張り付かないから商売が成り立たないし、商店ができない。お店をつくれれば買い物に来るというわけではないと思う。

高齢化した人たちが集まって住めるような駅を中心としたまちづくりが必要ではないか。若い人たちは、車があるのでまちの外側に住んでも構わないのではないか。

- 学校を利用して、子どもと老人と一緒に過ごすも一つの方法ではないか。
- 地域に住むということを考えると高齢化した人たちが安心して住める地域をつくり、安心して住んでくださいと江別市で言えるようなまちをつくらなければならないと思う。

隼田部会長： 高齢者の生活環境について絞って考えると、これまで長い間、高齢者施設というのは、市街化調整区域近くに建っていて、非常に不便な場所にある。一方で、便利な一番良い場所に建てるとなると、とても高額な老人福祉施設になってしまう。江別は、比較的札幌から近いので利便性もあり、札幌の都心部よりも手頃な施設をつくって人を呼び込める可能性がいっぱいある。今までの資産を活用する場合には、適切ではない場所を選ぶとかえって悪くなってしまう。

駅周辺に人が集中的に居住できるようにしようという前提で、人が集まる所に店舗が集まってくるというのは非常に合理的な考え方であると思う。では、そのためにどのようなメニューが必要かを考えることが戦略テーマで必要となる。

- 駅を中心として、イベントの時に循環バスを走らせてはどうか。若い人が来やすいまちにしなければならない。初めて江別に来たとしても、駅に江別市の情報が少ない。また、新規就農策として、学生時代に農家の手伝いをして単位をもらい、農家で何か得るものがあれば、そのまま定住してもらえようような仕組みをつくってはどうか。

隼田部会長： 若い人が就農を考えた時に、長沼町などと比較すると、札幌に近い江別は魅力的であると思うが、仕掛けがないから情報の発信ができない状態である。

- 桜を観に行くとなると、静内や函館に観に行く人が多い。それなのに桜の樹がある「大型公園」を江別につくって人を呼び込むことができるのか疑問である。札幌には円山公園があるのに、わざわざ札幌から人を呼び込むことが必要だろうか。小さな公園の管理すらきちんとできていない状況である。
- 札幌にあれだけ大掛かりな公園があって、距離や交通の手段でも負けている江別に「大型公園」を長い年月をかけてつくって、本当に人が札幌から来るだろうか。それよりも、市民にとって気持ちの良い公園を整備して、人に住んでもらうことを考えた方が良いのではないか。
- 湯川公園など、市内に桜の名所と言われている所がある。この部会としては、今あるものを活用していくということの良いのではないか。

○ 庭を持っている民家の方に協力してもらって、桜の樹を敷地に植えてもらうことも一つの方法ではないか。

隼田部会長： 例えば、恵庭市の恵み野では、競うようにガーデニングを行なっている。町内会単位で植樹の募集を行なったり、ワークショップを実施したりするような企画を行うのも良いのではないか。

○ ガーデニングは、お金がかかるので、桜の苗木ぐらいただったら1本ぐらいをあげて住宅街の通りの部分に植えさせてもらうというのはどうか。

○ 自転車と歩行者の分離について、ハードがある程度整ったら、自転車の乗り方について早く教育してほしい。モラルの問題である。

隼田部会長： 自転車と歩行者が共存できるまちづくりというのは、総合計画の標語として相応しいと思う。具体的に何をやるかは、市の方で警察と調整するなどの検討が必要となる。

○ スクールバスに一般市民が混乗する場合、農村地区のように顔を知っている人たちであれば問題ないが、市街地だと怖い。

⇒事務局：テストケースとして、農村地区で子どもたちと農村地区の市民が混乗して、第三中学校経由で市立病院まで運行するという形で実施している。

○ 駐輪場の問題は、マナーやモラルの問題である。

○ 駐輪場の管理について、シルバー人材センターの人は、朝しか管理しておらず、夕方には大変なことになっている。特に、女性が自転車を出すのが大変である。駐輪スペースは、すでに十分にある。

隼田部会長： 市民がどのように関わられるかということは、重要なキーワードだと思う。

3 戦略テーマの整理

隼田部会長： 私と事務局とで素案を作成してみる。これまでの話を元に優先順位を決めて、キーワードを挙げていきたい。その上で、戦略的なテーマ（部会委員の思いが伝わるようなもの）を理由づけて提言できるように準備したい。そして、具体的な方策については、詳細な計画を詰めていく段階で、今後別な場で検討されていくことになる。

前回の市民会議で投票された結果も参考にしながら、まちづくり部会としての優先順位を明確にしていきたい。これだったら行けるのではないかというもの、部会委員の思いを出していくと、市長も市の職員も具体の議論をきっと行なってくれるものと思う。

市民の関わり方、人が集まってくれる仕組みづくりを考える時に、どれを特に押していくかを検討したい。

○ 市民の自発的な協働の意志が必要ではないか。市が市民に対して啓発活動を行なってやる気を引き出してはどうか。市民のやる気が原動力になると思う。

「江別の強みを活かし財政負担が少ない市民協働のまちに」という意見が重要であると

思う。

- 「市内循環バス、コミュニティバスの整備」、「駅に物産展や農作物を販売できる場所が必要」、「自家用車を使わなくてもいいまちづくり」が重要であると思う。これらはいろいろな所で関連性があると思う。駅から市内へ伸びていくコミュニティバスの整備とその駅での物産等の販売があると、自家用車を使わなくても公共交通で買い物難民を防ぐことができると思う。
- 自分なりにマトリックスの中でまとめてみたが、ハードの中期から見ると、江別駅に限らず「駅周辺の整備」、次にソフトの中期のところをひっくるめて「市内の交通網の整備」、そして、ソフトの短期のところから「農産物や特産物を活かす」、ハードづくりの短期の中から「都市と農村の調和のある住みよいまち」という具合にまとめてみた。
- 江別の縦長のまちを「コンパクトシティ」という考え方が大事であると考えている。当然、駅が中心となるが、江別、野幌、大麻の駅に人口が集中できるまちづくりを行うべきであると思う。単純に駅周辺に人口が集中するというものではなく、高齢化を見据えた、高齢者に優しい駅周辺の生活空間をつくっていくことが、大事であると思う。コンパクトになって人口密度が高くなると、既存の商店以外にも新しい商業者の参入が必要であると思う。商店街をつくる発想の前に、高齢者に優しいまちをつくることを考えるのが大事であると思う。そのため、単純に5年程度でできるものではなく、長期のスパンで考え、少しずつ実施していくべきであると思う。
- 豊幌では先ほどからの問題が、スマートに解決されていると思う。駅の周りの住宅街にお年寄りや子どもたちが住んでいるし、農家の方たちともコミュニケーションがあり、学校では、農家と一緒にあって行事を企画している。また、駅前にはコンビニがあるし、農作物の物産を販売しているところもある。こういうことがそのまま、江別全体に広がると良いと思う。人が住むためには、駅周辺の整備が大事だと思う。ソフトの中期にある「駅周辺は公共施設整備よりも企業誘致が必要」というような人が住めるための雇用の場も必要だと思う。親や祖父母を入れたい養護施設が、江別にはないので札幌で探している。豊幌にも養護施設はあるが、就職口が江別があれば親と一緒に暮らすことができる。
- 「情報の発信」をこまめに、かつ丁寧に、市役所だけではなくいろいろなものを使って行なうべきである。市にやってもらおうという市民意識から、自分たちも参加できるという意識に変わってほしい。何かをつくる、何かをするということではないが、まちづくりを進めていく中で、市民を巻き込むということは、鍵になるのではないかなと思う。例えば、「植樹」や「お祭り」といった市民が気軽に参加できる部分から、市民意識の変化が話し合いの中で生まれたら良いと思う。

隼田部会長：全国的にある話として、老人クラブが特定の人ばかりの濃密な人間関係に偏ってしまい、気軽に話し合いができない場になっているという例がある。

これまでのまちづくり活動で思うことは、「気軽」ではないということ。相
当なエネルギーをつぎ込まないとまちづくり活動はできない。札幌には市民活

動サポートセンターが街中にあるが、サポートを受ける人たちも限られており、本来ならば市民にもっと広がらなければならない。例えば、「シニアサロン」というものが、全国的に広がってきているが、デイサービスなどの介護保険事業とは違う形で、もっと自発的にお年寄りや多世代の人たちが集まるというものである。ただ、事業化する際に市民側が乗っかりきれないということがある。情報発信によってハードルを下げるアイデアを伺いたい。

○ 終わってから気付く行事がある。市の情報発信は広報かも知れないが、自治会費を払っていない世帯には自治会から広報が配られていない。

隼田部会長： 都市では、町内会の空洞化の問題があるが、最近では、このご時世なので、町内会に入会するマンションが増えている。

○ 岩見沢市では、駅で行事のアナウンスを行なっている。

○ アナウンスのスピーカーは、いざという時に災害の放送に使えるのではないか。

○ 市内4つの駅や市庁舎等の公共施設でアナウンスをできないだろうか。

⇒ 事務局：市立病院の広告用モニターや市民課の窓口の受付番号表示のモニターの一部を使って事業の案内を行なっている。防災無線を利用した街への一斉放送は、農村部なら良いかもしれないが、街中ではかえって苦情が出てしまう。

隼田部会長： 情報大学では、江別のまちを知ってもらうために携帯端末等を利用したゲームを学生たちの手で作っている。

今出た意見としては、理念的なものとして「自発的な協働の意志」を醸成するのに市が市民をサポートする仕組みがほしい、そして「情報発信」をする。また、「コンパクトシティ」という高齢者を見据えたまちづくりの中で活性化を図り、そこから農村部や郊外とを繋ぐコミュニティバスのような交通ネットワークを効率よく整備した「買い物と交通のリンク」や、「都市の機能を集約」し「農村部の特色」を活かしてこの2つの調和を図る「農村部と市中心部とのリンク」。大きく分けて2本立てでまとまったと思う。

これらを中心としたたたき台を作成したい。今後は、施策の展開を具体的に挙げていきたい。今出ていたのは、「コミュニティバス」、「バスネットワーク」、「公共交通ネットワークと駅周辺の整備」、「情報発信」といったものである。

○ 駅周辺の開発については、同列になると思う。順番を付けると次に江別駅ではないか。

○ 今、野幌の顔づくり事業を進めており、野幌駅と同じようなものを同列でつくるのではなく、野幌駅の状態を踏まえながら、江別や大麻といった地域の特色をそれぞれ活かした開発の戦略とすべきではないか。

○ それぞれの駅のコンセプトをはっきりとさせてから開発すべきと思う。